

II-376

河川のアメニティ向上のためのアンケート調査

山口大学工学部 正員 浮田正夫
正員 関根雅彦
正員 中西 弘

1. はじめに

都市のアメニティ向上の一環として、各地で水辺の親水空間の見直しが盛んに行われている。身近な水環境に対する市民の関心を高めることは、水質保全行政にとっても、非常に重要なことであると考えられる。

本研究では、このような観点から昨年度に行った、みじかな水辺の環境を考える市民アンケート調査によって得られた成果について報告する。なお結果の一部は本年の中国四国支部研究発表会にも報告した。

2. 研究方法

身近な水辺のアメニティ向上に対する市民のニーズをさぐり、その関心を高める目的で、市内の河川を題材にとった水辺のカラー写真の感想を問う設問も含めたアンケートを実施した。調査時期は昭和63年1月で、主に、市内の各中学校1年生の2クラス程度の生徒とその家族に答えてもらった。回収率は各校長に主旨を理解していただいて協力を得たので、94%と高かった。

3. 研究結果および考察

回答数は世帯主または主婦に対する設問の回答については670であるが、写真による景観については家族の3人まで答えてもらったので、回答数は2,010である。前者については男28%、女72%と主婦が答えたケースが多く、年齢構成も40代が48%、30代が42%と偏りがある。一方、後者については男44%、女56%であり差がないが、年齢構成は20歳未満が34%、40代が24%、30代が32%とやはり偏りがある。

以下、主要な回答状況を表1、表2にまとめている。

(1) 世帯主あるいは主婦に対する設問

- 1) 河川の汚れと家庭下水の関係についての意識 今回の調査では、河川の汚れと家庭下水の関係について日頃意識していないか、どちらかといえば意識していない人が43%にものぼった。前回、町内会長に対するアンケート（n=568）では12%であったから、相当な差があることは注目される。
- 2) 河川水路の清掃活動については68%の人が溝は市民の、河川は市の責任で行うべきであるとしている。前問で、意識している人の27%は河川も含めて市民が積極的に清掃すべきであるとし、また一方、意識をしていない人の22%が溝も市が清掃すべきであるとしている。
- 3) 三面張りの是非 三面張りについては、よいとした人27%、どちらかというといよいとした人44%と、肯定的な意見が71%と多かった。また、女性の方が73%と男性の66%より支持率が高いことは注目に値する。
- 4) 快適環境づくりのための工事費について 河川環境のアメニティ向上のために、工事量とトレードオフの形で、工事費のどの程度あててもよいかという設問に対しては、42%の人が20%まで、32%の人が10%までと、市民の関心の高さが感じられる。意識している人より、していない人の方が費用をかけてもいいとする割合がやや多い傾向がある。浸水防止のための河川改修が急がれている厚南地区で、54%の人が20%まで、10%の人が50%まであててもよいと、関心がむしろ高いのは意外である。
- 5) 雑排水の処理費用 雑排水の処理には、家計から月1,000円まで支出してよいというのが32%と最も多いが、答えは分散的であり、前問よりも関心は低いようである。意識をしている人の方がしていない人よりも、処理費をかけてもいいとする割合がやや高い傾向がある。

(2) 写真による景観アンケート

- 1) 概況 好ましい～好ましくないの4段階に対し、95,65,35,5の点をつけ、評価点として表すと、18から85に分布し、厚東川中流部、中川三面張り、鯉の泳ぐ塩田川などで高く、ゴミのある塩田川、水のきかない水路、工事後の明神川などで低かった。三面張りは意外に好評、ゴミの影響大、鯉のぼりの評価は低かつ

た。

2) 男女による差 表2に示されるように、女性は写真3や写真10に対する評価が高めで、男性より人工的な水路を好む傾向が見られた。また女性は過度な自然を好まず、花の効果は大きい。一般に男の方がロマンチストの傾向を示したことは意外であった。

3) 年齢による差 鯉とゴミ（写真6,7）、あまり良くない改修工事前後（写真8,9）、花の有無（写真11,12）による評価点への影響は年齢が大きくなるほど小さくなり、感受性の低下が窺われた。

4) 地域による差 地域的な特性については以下のような傾向が指摘できる。

- 山間部では過度の自然は好まないが、一方で人為的なコピーに対する評価は低い。
- 高級住宅地域では、水の汚れやまた埋立て公園化の評価等、観念的な理解に優れる。また山間部同様コピーを嫌う傾向がある。
- 写真10に対する評価点が浸水問題を抱える厚南地区でやや高い。
- 沿岸に公園が整備されている市役所付近の真締川（写真20）の旧市内における評価が比較的高い。

4. おわりに

本調査を通して、市民は河川環境のアメニティ向上に高い関心を有していること、河川の人工化に肯定的な意見が多いこと、女性が意外にその傾向が強いことなどが分かった。今後とも市民の啓蒙や土木技術者の意識向上につとめる必要がある。また、現場においても出来る範囲で、心遣いや工夫が必要であろう。

表1 アンケート調査結果(1) 世帯主または主婦
n=670

設 問	回 答	
近くの水路や河川の よごれと、家庭下水 の関係を意識してい るか。	1 していない 2 どちらかといえばしている 3 “ していない 4 していない	23% 34 26 17
水路や河川の清掃活 動について	1. 溝、河川とも市民がする 2. 溝は市民が、河川は市が 3. 溝も河川も市がすべきだ	21% 68 11
中小河川のコンクリ ート三面張りをどう 思うか。	1. よい 2. どちらかといえばよい 3. “ わるい 4. わるい	27% 44 24 5
河川の改修工事で、 快適性を高めるため 工事費の上積みをもど の程度認めるか。	1. 0% 4% 4. 20%まで 2. 5%まで 15 5. 50%まで 3. 10%まで 32	42% 7 7
家庭雑排水の処理に、 家計から1ヶ月どの 位支出できるか。	1. 0円 8% 4. ~1500 2. ~500 11 5. ~2000 3. ~1000 23 6. 2001~	32% 16 10

表2 アンケート調査結果(2) 写真による河川環境評価

1.好ましい 2.どちらかといえば好ましい 3.どちらかとい えば好ましくない 4.好ましくない n=2,010									
写真地点（特徴） No.	回答率(%)				評価点				
	1.	2.	3.	4.	全	男	女		
1 梅田川(木のある散歩道)	18	30	34	18	49	49	49		
2 梅田川(神社横三面張り)	15	36	34	15	50	49	51		
3 中川 (新しい三面張り)	61	27	8	4	78	76	80		
4 塩田川(工場裏ゴミあり)	2	6	25	67	18	18	17		
5 塩田川(柳並木二面張り)	31	42	20	7	64	64	65		
6 塩田川(錦鯉が泳ぐ)	57	29	10	4	76	76	77		
7 塩田川(同所、ゴミあり)	2	7	27	64	19	20	19		
8 明神川(改修前)	11	24	36	29	40	42	39		
9 明神川(改修後、カマス)	3	9	37	51	24	24	24		
10 明神川(横桁のある川)	42	31	17	10	66	64	68		
11 大沢水路(歩道、花あり)	44	38	12	6	71	67	74		
12 大沢水路(同、花なし)	21	42	28	9	57	55	59		
13 栄川(埋立てた公園)	26	33	27	14	56	55	53		
14 小串水路(水が汚い)	2	7	32	59	21	21	21		
15 沢波川(神社横古い風情)	17	34	29	19	50	51	49		
16 厚東川(中流部砂州あり)	76	18	5	2	85	85	86		
17 真締川(中流夏水草あり)	10	23	34	33	38	40	37		
18 真締川(同、冬水草なし)	28	46	21	5	64	63	64		
19 真締川(下流鯉登りあり)	44	38	14	4	72	71	72		
20 真締川(同、鯉登りなし)	49	36	11	4	74	72	74		